

代表者会議【資料2-2】

令和 6 年度 相談支援実施状況（令和 6 年 4 月 ～ 令和 7 年 3 月分）

事業所名： 地域生活支援センター 元町の家

I 相談利用者の状況

相談形態	電話	来所	訪問	その他	月別延べ件数計 (件) 7857件		
	6699	609	469	80			
相談者	本人	家族・親戚	その他機関等		月別延べ件数計 (件) 7857件		
	4199	570	3088				
地 域	茅ヶ崎	寒川	その他		実人数 (人) 797人		
	686	7	104				
障害種別	身体	知的	精神	発達	高次能	その他	実人数 (人) 797人
	5	39	659	40	0	54	

II 対応事業別の実績

事業項目		年間相談計(件)
(1)市町村相談支援機能強化事業		6585
(2)障害者相談支援事業		1272
(内 訳) ※重複あり	(ア)福祉サービスの利用援助(情報提供、相談等)	873
	(イ)社会資源を活用するための支援	247
	(ウ)社会生活力を高めるための支援	33
	(エ)ピアカウンセリング	21
	(オ)権利の擁護のために必要な援助	14
	(カ)専門機関の紹介	20
	(キ)自立支援協議会の部会の運営業務	0
	(ク)上記以外の相談	451

III 相談の傾向や課題、その他の取り組み状況など

○傾向

- ・ 相談形態として、電話対応が約85%を占めている。
- ・ 相談者は、当事者本人が約50%。障害種別として、数値的には精神疾患をお持ちの方が、80%を占めている。但し、精神疾患を発症している方のうち、何らかの理由で行き辛さを抱えるなど発達段階から問題を抱えていた結果、2次障害として精神疾患を発症した可能性も考えられるが、発達障害に関わる診断に至っていないことが少なくない為、数字には反映され難い。
- ・ 対応事業別の実績として、福祉サービスの利用援助が7割弱を占めている。利用を支援するサービスとしては、居宅介護(ヘルパー)が多い傾向にある。続いて共同生活援助(グループホーム)等の居住支援サービス、そして、就労支援サービス、訪問看護等の医療サービスと続く。社会資源を活用するための支援は、2割弱。内訳として、医療機関への受療支援や福祉サービスや社会保障制度の説明、行政機関等への手続きやサービス提供事業所への見学同行などの対応が、比較的多い傾向にある。

○課題

- ・ 事業所内では、委託相談に加えて計画相談や認定調査、神奈川県からは様々な事業を受託しており、各相談員は、様々な事業を兼務して対応している。特に相談業務に関しては、相談を受理する度に随時対応が求められる為、様々な事業と並行して業務を遂行する事が、難しい状況に陥ってしまう。
- ・ 相談業務の対応方法として電話・来所面談・訪問等の形態を用いているが、電話対応の件数が、全体の

85%を占めている。利用者や関係機関からは、電話が繋がりにくい事業所としての悪名が浸透しているが、要因として電話対応に日々追われている状況である事と、電話相談による対応時間が長引くことにより、電話が繋がりにくい状況を生み出していると考える。

○その他の取り組み状況など

- ・ 茅ヶ崎市自立支援協議会については、就労・生活支援部会の事務局を担っている。令和6年度の部会のテーマとして、今まで部会で取り組んできた職場体験実習を、部会の役割から地域の役割として引き継ぐ活動を進めており、市内就労支援機関との連携を図り始めている。一方、教育機関の利用を終えた後、進路先が定まらないまま潜在化している引きこもり等の事案が顕在化していることから今年度より、進路に関する普及啓発活動に取り組んでいる。活動の一環として、就労支援サービスを広く周知する活動を企画している。
- ・ その他の会議体として茅ヶ崎市内では、茅ヶ崎相談支援事業所連絡会、茅ヶ崎寒川精神保健福祉事務所等連絡会、地域精神保健福祉連絡協議会、精神保健ボランティア推進委員会などの会議体にも参画している。
- ・ 月3回程度の頻度で、生活教室を開催。日中活動先に繋がりにくい当事者を対象に、ゲーム、外出、創作活動、調理等のプログラムを設けることで、生活意欲やコミュニケーション意欲を高められるような機会を提供している。
- ・ 茅ヶ崎市より個別避難計画の作成業務を受託。日常生活から一変する災害時、福祉の支援が得られにくい状況下において地域からの共助が得られる仕組み作りの一環として、対象者となる当事者に対して個別避難計画を作成。